

## 日本人街だったガラパン



戦前ガラパンの地図（北マリアナ博物館展示）

北マリアナ諸島を含むミクロネシア（いわゆる南洋諸島）は19世紀までスペインが統治していた。1898年にスペインと米国の間で戦争がおこると（米西戦争）、敗北したスペインは1899年グアムを米国に割譲し、その他の島々をドイツに売却した。ここにサイパンも含むミクロネシア（南洋諸島）のドイツ統治が始まる。第一次大戦が起こると、日本はドイツ領南洋諸島に兵を進め無血占領した。その結果、1919年ベルサイユ講和条約によりミクロネシア全体は日本のものとなり、翌年には国際連盟が正式に日本に統治を委任するに至った。1933年に国際連盟を脱退した日本だが、南洋諸島の統治は引き続いて国際的に認められた。

サイパン島には、南洋拓殖、南洋貿易、南洋興発という3大殖産会社によってサトウキビ栽培を中心とする農業が発展し、1930年代の南洋諸島はスペイン統治・ドイツ統治下には経験しなかったようなめざましい経済発展を遂げる。特に南洋諸島の中心部であったサイパン島には、工場、学校、病院、デパート、映画館、オフィスなどの近代的都市景観が出現し、島の周囲をサトウキビ列車が走った。また増え続ける日本人移住者のために、日本風の家屋、商店、食堂、旅館、遊郭、さらには神社、寺院、奉安殿などが作られた。並行して、チャモロ人、キャロリニアン人などの先住民族に対して日本語・日本文化同化

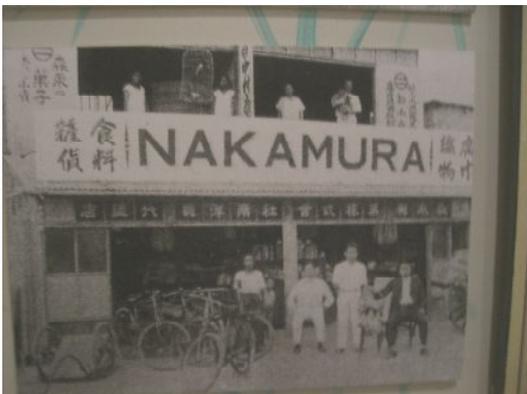
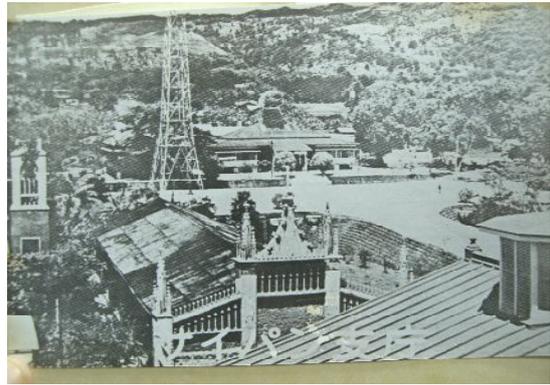
教育も行なわれた。

日本統治時代のガラパンには、役場、郵便局、公会堂、警察、裁判所といった公共施設はもとより、幼稚園から実業学校、高等女子学校までの教育機関が整えられ、日本人移民は日本にいるときと全く変わらない生活を続けることができた。八百屋、豆腐屋、電気屋、薬局だけでなく、デパートなども立ち並び、銭湯もあれば、葬儀社もあった。当時日本でも「ハイカラ」とされていたコーヒーやパンなども店頭の陳列棚に並んだ。人気のカフェでは、サイパンで栽培したコーヒー豆を煎って、客がくると豆を挽いてコーヒーを出した。島の周辺ではアジ、トビウオ、マグロなども獲れ、刺身には事欠かず、かつお節製造所もあったので、ガラパンの料亭では日本本土と全く変わらぬ豪勢な和食を楽しむことができた。ガラパンには、ラジオ局と「サイパン劇場」と呼ばれる映画館まであった。このラジオ局のおかげで本土からの情報がすばやく得られたし、映画館では日本で人気の「鞍馬天狗」「愛染かつら」などの映画が上映され、本土の流行に遅れをとらなかった。ガラパンは1930年代には「南洋の東京」と呼ばれる繁華街へと成長した。

1937年以降日中戦争が本格化し、日本本土自体が平時体制から戦時体制に移行していくと、南洋群島は来るべき対米戦争に備えて軍事基地化する。日本本土や、満州などから日本兵がサイパンに流入し、サトウキビ畑を壊して飛行場など軍事施設が多数作られるようになった。島の日本人人口は、民間人およそ2万人に対して、軍人が4万3000人にふくれ上がる。(チャモロ人、キャロリニア人人口は合わせて約4000人)太平洋戦争が始まると、ガラパンには米軍の攻撃から南洋諸島を守るべく日本兵が続々と上陸し、民家や商店は彼らに明け渡され、街の様子は一転する。そして1944年6月11日、米軍による無差別爆撃が始まると、ガラパンはわずか7時間足らずで廃墟と化した。ガラパンで戦火を逃れた人々は、タポチョ山方面へ向かった。山道沿いに、その行列は果てしなく続いているように見えたそうだが、この行列は、やがてバンザイ・クリフ、スーサイド・クリフへと続く「死への行列」となっていった。日本兵4万1000人、民間人1万人が犠牲となり、彼らが島に築き上げた財産と日本文化の全てが破壊・消滅してしまう。

現在の南ガラパンは、崩壊した本願寺の門柱跡、当時使われていた日本刑務所、サトウキビ列車の線路跡などが手入れされるでもなく残っているだけで、日本統治時代、洒落たカフェなどが立ち並んでいた「ハイカラな日本人街」は想像もできない。北ガラパンは現在サイパン随一の繁華街となり、観光客相手の免税店、有名ブランド、高級ホテル、レストランが立ち並んでいる。日本語の看板も目立つが、これは日本人観光客相手の商売をしているだけで、北ガラパンが再び日本人街として成長している訳ではない。北ガラパンには、戦前実際に使用されていた奉安殿(戦前、各地の学校で天皇皇后の写真と教育勅語を納めた建物)が、中心部に移築されてひっそりと立っている程度である。

[参考資料 野村進『日本領サイパンの2万日』(岩波書店)]



日本統治時代のガラパン (写真提供 CNMI Historic Preservation Office)



(CMNI Historic Preservation Office)



現在も残る奉安殿 (金八レストラン近くに残る)



浄土宗 多宝山南洋寺跡



東本願寺跡



空襲で破壊された香取神社の灯籠



かつて海岸線を走ったさとうきび列車の駅近くにあった貯水池跡



南洋庁サイパン実業学校跡



かつてこのあたりに、日本人が経営するかつお節製造所や、旅館、喫茶店などがあった。



南ガラパン（現歴史博物館近辺）には、日本人街として栄えた面影は全くない。おそらく戦争中の空襲で廃墟になった建物もそのまま残る。